

研究テーマ名	自動運転車と共生する社会—その基盤整備に向けた包括的提言
背景と目的	<p>自動運転車の社会実装が間近に迫り、自動運転車に対する期待と共に喫緊の課題も明らかになりつつある。それは、①自動運転車の安全走行（自動運転車相互、自動運転車対歩行者、自転車等）を担保する道路及び都市の整備、②自動運転車が経済に及ぼす影響の評価（事故数、死亡・負傷者数の減少という積極的効果、タクシー等の需要減少に見られる消極的効果）、③レベル3以上で走行する車両の乗員に求められる健康状態や当該車両が乗員に及ぼす健康被害等の予測、④不可避免的に生じる自動運転車に係る事故への対処（特定人を非難し責任追及するのか、事故原因解明を優先し同種事故防止を重視するのか等）、⑤以上の問題への解答の法整備化である。①は工学、②は経済学、③は医学、④は社会学、倫理学、心理学、哲学、⑤は法学の基本問題に直結する。そこで各専門的知見を踏まえた研究をし、その成果を国内外の政策担当者に提示することを目指す。</p>
期待される成果	<p>① 過疎化、高齢化が進む地域では、住民の公共交通としての自動運転車に優先道路を設定し、レベル3又は4での（死亡事故を回避できる低速での）走行を許可する。その際、住民の合意形成を確実にする措置（協調型インフラ基盤整備、器機故障や物損事故に急行できる人員の配置、警察、消防との連携等に係る合意形成等）の実施方法を講じる。</p> <p>② 自動運転車の便益（事故数、死傷者数の減少、交通弱者への移動手段の提供等）と損失（タクシーや物流事業従事者の失業、事故責任主体の不明確化等）に注目し、最適損失分岐点を推定し、産業構造の変容に対処可能にする。</p> <p>③ レベル3の乗員は、突然のtake over request後、運転者になるため、通常の運転者より高い緊張状態に置かれる。その際の運転適性を維持しうる条件（医学的、法学的条件等）を検討する。レベル3以上の車両が故障又は事故に遭遇した場合、負傷等した乗員の救助を容易にするシステムを、乗員のプライバシー保護を踏まえつつ提案する。</p> <p>④ 自動運転中の死傷事故では（乗員は運転責任を負わないが）誰かに非難が向けられるのか、責任追及に替えて事故原因解明による将来の事故防止を追求すべきか、Web調査を通じて社会意識を分析しつつ、両説の併用可能性を検討する。</p> <p>⑤ 以上の提案の鍵となる運転者及び乗員の概念、権利・義務を整</p>

	理し、運転者が乗車していなくても走る車に適した法制度（自動運転車に固有の法律案）を提案する。
--	--